

国語 [その1]

一次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

将棋の藤井聡太四段は、AI（人工知能）に勝てるだろうか。1そもそもAIは何ができて、何ができないのか。

将棋AI「ポナンザ」の開発に携わった井口圭一は、「機械学習と人間の差はまた大きい」という。いま存在しているAIは「特化型」と呼ばれ、用途が1**1** 的だ。将棋AIにはペンチャー投資はできないし、新しいゲームを開発することもできない。幅広い分野でジリツ的に課題を発見・解決できる「汎用型」AIは、実現の見通しが立っていない。

それでは、現状レベルのAIでも、導入すれば経済が成長するだろうか。東大合格をめざすAI開発で知られる新井紀子は「AIで生産性を上げれば経済が成長する、というのは誤解です」という。AIで労働コストを削減し、それで生産性を上げることができる。だが「それそのものは新しい価値や需要を生み出しません」というのだ。

それはなぜか。理由の一つは、今のAIが、一定の枠内で収集された過去のデータを学習するだけのものだからだ。一例をあげよう。来店客の購買データをAIで**1**解析し、品ぞろえの効率化をしたとする。だが過去の来店客のデータを解析しても、「店に来たことのない客」や「未来の新製品への反応」はわからない。そうである以上、「固定客にもっと買わせる品ぞろえ」はできるだろうが、顧客の新規開拓や、新製品の開発には直結しない。結果的に、需要や価値を新しく生むことにはつながりにくいのだ。

いわば現行のAIは、2**2** 的な性格を持つともいえる。「イノベーション」を説明する例え話として、「馬車をいくらつないでも鉄道にはならない」というものがある。それと同様に、馬車のビッグデータをAIに学習させても、鉄道の発明には直結しない。【i】それは、馬車の改良を促してしまうだろう。

もちろん人間は、歴史を学ぶことで、未来を革新できる。だがそのためには、過去のデータから、統計的に例外でも重要な事例に着目し、価値を与えることが必要だ。そういうことは、AIにはできない。AIにできるのは、過去の延長で未来を予測することだけだ。

雇用問題。センモン誌「POSSE」は、AIによる労務管理が普及すれば、かえって古い「日本型雇用」が強化されるとシテキする。過去のデータから人事評価基準を作れば、従来型の働き方をしている社員の方が、高く評価される人事システムができるだろうからだ。AIに変革はできない。AIが得意なのは、従来の構造を維持したまま、コストを削ることだ。最悪の場合、AIで労働コストを削る

ことによって、古い産業や無能な経営者が延命するだろう。今野晴貴は、低賃金で維持されている小売りチェーンなどの低生産性部門が、現状のままAIを導入した姿をこう想定する。数人の社員が、多数の無人店舗を管理するべく長時間働き、「労働は減るが、長時間労働は減らない」という状態になるだろうと。これでは、失業とデフレと過労死がヘイゾンするだけだ。

【ii】問題はこうだ。AIそのものは新しい価値や成長を生み出すわけではない。イノベーションを起こすには、新しい価値や、社会制度の変革が必要だ。だがそれは、人間にしかできない。

「人間はAIに勝てるか」という問いがある。だが実は、人間は昔から機械に負けている。自動車より早く走れる人はいない。【iii】そのことで、「人間は自動車に負けた」と嘆く人はいない。それは、自動車を人間の補助として使いこなせるように、社会のあり方を革新（イノベーション）したからだ。人間が機械に勝るとすれば、機械と競争することによってではなく、機械と共存できるように社会を革新することによってである。

AIについても共存の方向で社会を変える試みがある。米マサチューセッツ工科大教授のダニエラ・ラスは、自動運転でトラック運転手の仕事をなくすより、運転手が疲労や睡魔に襲われた際の安全装備として自動運転を使う方が3**3** 的だと唱えた。ドイツの労組は、政府や経済界と共同して、AI導入に備えた職業訓練制度を提起している。

C この点で日本は対応が遅れぎみだ。前述の新井は、政府の態度をこう評した。「AIですごいイノベーションを起こせば逆転満塁ホームランが打てるという**4**青写真を描こうとしている」。新井によれば、事務職の仕事の2割がAIに代替可能と予測され、人々を新しい職に移行させる能力開発と、貧困に起因する教育劣化への対策が急務だ。それなのに政府は、地道な対策に取り組むよりも、『ここは機械にホームランを打ってもらおう』と考える。これが今のAIブームを支えている」という。

新技術の導入だけで経済が成長するなどという期待は、高度成長への誤解に基づくノスタルジーにすぎない。古い社会や古い政治を延命するためにAIを使えば、多くの人が犠牲になる。それこそ、「人間がAIに負ける」という事態にほかならない。そうではなく、AIと共存できる社会に変えていくために、人間にしかない英知を使うべきだ。

なお冒頭の「藤井四段はAIに勝てるか」の答えはこうだ。彼はAIに勝とうとしていない。AIを相手に練習し、AIを自分を磨く道具にした。まるで、自動車と競争するのではなく、自動車を使いこなすべく社会を変えた人々のように。

（小熊英二「AIが絶対できないこと」『朝日新聞』平成二十九年七月二十七日）

（注）※藤井聡太四段……二〇〇二年生まれの将棋棋士。段位は平成二十九年時点のもの。

※ベンチャー投資……損失の危険性が高い反面、収益性も高い投資のこと。

※汎用型……一つものを広くいろいろな方面に用いることができるタイプのこと。

※ビッグデータ……一般的なデータ管理・処理ソフトウェアで扱うことが困難なほど巨大で複雑なデータのこと。

※労組……賃上げ・労働環境の向上などの共通目標達成を目的とした労働者の連帯組織。労働組合。

※ノスタルジー……過ぎ去った時間や時代、ふるさとを懐かしむ気持ち。

問一 二重傍線部 a～f について、カタカナのものは漢字に直し、漢字のものはその読みをひらがなで記しなさい。

問二 1 ㄱ 3 に入る最も適当な言葉をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を重ねて用いてはならない。

イ 革新 ロ 理想 ハ 限定 ニ 保守 ホ 具体 ヘ 抽象 ト 現実

問三 【i】ㄱ 【iii】に入る最も適当な言葉をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を重ねて用いてはならない。

イ しかし ロ しかも ハ ただし ニ つまり ホ なお ヘ むしろ

問四 波線部①・②の意味として最も適当なものをそれぞれあとの選択肢から選び、記号で答えなさい。

①解析

イ 事柄の多様な意味を詳しく説明すること ロ 内部の構造や状態を細かく観察すること

ハ 物事を細かく分け論理的に研究すること ニ 問題点の所在を明らかにし追求すること

ホ 問題を的確に処理して決着をつけること

②青写真

イ 過ぎ去った思い出 ロ 現状に対する認識 ハ 悲劇的な結末 ニ おおよその計画 ホ 無意味な予想

問五 傍線部1「そもそもAIは何ができて、何ができないのか」とあるが、「AI」が「できない」ことを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

イ 新しい客をふやすこと ロ 統計データをとること ハ 商品の品質を上げること

ニ 製造費用を抑えること ホ 社会制度を変革すること ヘ 労働を効率化すること

問六 傍線部2「現状レベルのAIでも、導入すれば経済が成長するだろうか」とあるが、

I AIの導入によって経済の行き詰まりを解消することを比喻によって表現した部分をB～C文中から九字で探し、抜き出して記しなさい。

II 「現状レベルのAI」を導入した結果、現実にはどのようなことがありえると筆者は予想しているか。A文中から十字で探し、抜き出して記しなさい。

国語 [その二]

問七 傍線部3「馬車の改良を促してしまう」とあるが、その結果もたらされたものは何か。A文中から十五字で探し、抜き出して記しなさい。

問八 傍線部4「地道な対策」の具体例としてどのようなことがあげられているか。B文中から十四字で探し、抜き出して記しなさい。

問九 傍線部5「人間にしかない英知」とは具体的にどうすることだと筆者は述べているか。答えとなる部分をA文中から三十字以上四十字以内で探し、その始めと終わりの五字を抜き出して記しなさい。

問十 傍線部X「将棋の藤井聡太四段は、AI（人工知能）に勝てるだろうか」という問いに対して、傍線部Y「彼はAIに勝とうとしていない」と言っているが、なぜそのように言えるのか、B文中にある「補助」という言葉を用いて、三十字以上四十字以内で説明しなさい。

二 次の詩を読み、あとの問に答えなさい。

幸福な名前

牟礼慶子

¹ ガンガンとキキ
安部家に飼われていた

犬と猫の名前

甘えてなきやまない柴犬と

じゃれついて爪をたてる猫の子を

² カメラよりもはつきり写しとった名前

ねこじゃらし すもうとりぐさ

³ あかのまんま しやみせんぐさ

⁴ これらを雑草とは何ごとぞ

正当な学名も聞き覚えぬ

幼な遊びの手と手が

しつかりつかまえた草の名前

きりぎりす くさひばり

はたおり かねたたき

道はたの草むらの闇を

ひたすら点し続けて行く

そのあくまで澄みきった挨拶を

そっくり贈られた虫の名前

慈愛の深さは

いとしいものと結ばれ

凝視の確かさは

どんなに小さなものとも結ばれる

呼ぶものと呼ばれるものが

X 寄り合った 幸福な名前よ！

『ことばの冠』より

問六 Xに入る最も適当な言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

イ ふと ロ ひたと ハ はたと

ニ ぐつと ホ やつと

問七

傍線部6「結ばれ」・傍線部7「結ばれる」とあるが、具体的に言い換えた表現を二、三連からそれぞれ五字以内で探し、抜き出して記しなさい。

問五 傍線部5「挨拶」とは具体的に何をたとえているか。五字以内で記しなさい。

問六

記号で答えなさい。

イ ふと ロ ひたと ハ はたと

ニ ぐつと ホ やつと

問七

傍線部6「結ばれ」・傍線部7「結ばれる」とあるが、具体的に言い換えた表現を二、三連からそれぞれ五字以内で探し、抜き出して記しなさい。

三 次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

I ¹ 春がきた。

ところが少年はねむいどころではなかった。朝も起こされなくてもちゃんと目をさます。とびおきて蒲団をまくりあげ、前の晩から寝押ししておいたズボンをはいて、すぐ洗面所へ行く。

父の櫛を水でぬらして、鏡の前で寝ぐせのついた髪をとかす。それから、父がひげを剃ったあとに使うアメリカ製の白い粉を必要もないのに顔に塗ってみる。中学生の顔洗いはずいぶん長くかかる。彼は歯が乱ぐい歯なのと、いくらみがいても白くならないことではいらして、それでいつも時間をむだにってしまうのである。

彼がめかしているあいだ、痲癩もちの小さな男の子がいる隣りの家ではきょうも朝早くからおもちゃのピアノの音がしていた。誰も弾いていないのに鳴っているというふうに、ガラスの楽器のような澄んだ音がする。

水をつかいながら、少年はいけないことだと感じながらもつい隣りの家のほうをのぞいて見るのだった。青いこまかい葉をいちめんにつけた藤棚のむこうは繁みの蔭で暗いほどだった。その暗い部屋からピアノの音はしていた。

³ 春がきたのだ、と少年は思った。春がきたことがこんなにうれしいことはいままではなかった――

彼はもう一度、鏡の中を見た。鏡にうつっている少年はX浮かない顔をしていた。その顔はこういつているようでもあった。僕にはほんとうのところよくわからない。彼女が好きなかどうか、これが好きだということなのかどうかも。わかっているのは、彼女のことを考えはじめるともう何にも手がつかないということだ。

国語 [20の2]

少年はその顔で食堂へ行った。父はもう出かけたあとだった。

母と二人でする食事のさいちゅう、⁴彼は何度も子供部屋の柱時計に目をやった。

彼は食べたくない。それでもなんとか食べようとするのは母にあやしまれないようにするためである。母はたえず少年を観察している。

「あんたが勝手に起きてくれるから、おかあさん、とても助かる。」

「朝みんなとソフトボールをやるから。」

彼は口をうごかしながらいう。

「だから、早く行って場所をとらなきゃならないから。」

少年は母にうちの時計は正確かどうかときいた。母は狂っていても一、二分だといった。でもその一、二分が彼には問題だった。少年は毎朝「白百合[※]」の生徒たちが乗る江の島行きの電車に合わせて家を出るのである。彼女はその十分前に玄関を出てくる。

おたがいの家は五十メートルと離れていないのにうまく出会うことはとても少なかった。少年は歩きながらしょっちゅう道の前とうしろに気をくばり、わざとのろのろ歩いたり急に思いなおして早足になったりした。そして駅へ着いてからほんの一、二分のあいだ、向かい側のホームに彼女が鞆かぶとをさげて、一人でぼんやり立っているのや同級生とおしゃべりしているのを、あまり見すぎないように意識して見るのであった。

その朝、彼女がちょうど門から出てきたところへ少年が行った。少年の心はおどった。まだ二十メートルもはなれていた。その二十メートルを彼はうつむいて歩いた。

彼女は門のそばの石垣にもたれるようにしていた。――頭をかしげて、年上らしい落ちついた目をして。

「おはよう。」

彼女のほうから大きな声でいった。

少年はもっと近づいてから、それも小さい声でしかいえなかった。彼は何かいわれてもただ Y だけだった。そしてひどく急ぎ足になった。

彼女は小走りしながら腕時計を見た。

「何分の電車に乗るの？　おくれそう?」

「さあ、どうかな。」

彼は逃げるようにして、わき目もふらず^いにとっと歩いた。

「じゃあ走れば、いっしょに走ってあげる。」

そこで彼は走りだした。これはおかしな事になったと思いながら。

彼女も走ったけれど、たちまち少年にひきはなされた。彼はかまわず走りつづけた。走りながらやつぱり⁶どうしても彼女が好きなのがわかった。好きだ。彼はうしろも見ずに走った。

彼女は途中でのびてしまっていた。少年がふりかえると、手で小さなバイバイをして先に行けといった。

「おくれるといけないわ。」

で、彼はまた走らなければならなかった。

Ⅱ 夕方学校から帰ってくる、少年はまっさきに通りへ出て、斜すむかいの家の勝手口から目をはなさないようにした。雨さえ降らなければ彼の見張りは毎日かかさず同じ時刻におこなわれた。その時間になると彼女が小さな弟たちを夕飯に呼びに出てくるからである。

彼女のすがたが見えると少年はもうじつとしていられないので、彼が相手にするには幼すぎるような子供たちと遊戯に熱中するふりをした。そのあいだも頭はひとつのことでいっぱいだった。――自分の氣持を相手に知らせる決心がつくかしら。でもどうやって？　それ考えると彼の心は早くもしぼんでしまうのだった。

その晩も彼女は少年の家の前まで来ていた。すこしはなれると顔はもうよく見えなかった。彼女は何度も弟たちの名前を呼んだ。彼は小さな男の子たちを相手に Z はしぎながら、夕闇をすかしてたえず彼女の姿をさがした。

彼女は待ちくたびれたように門柱にもたれて、生垣いけがきのあすなろうの葉を一枚ずつみはじめた。小さくたんだハンカチを片手に握りしめて、ほそい指で葉をむしっては鱗うろこのようにはらばらにした。そしてそれをまたもと通りにくっつけようとすのだけれど、暗いので、ひどい近眼の人みたいに顔を葉に近づけるのだ。するとまるい癖のついた柔らかなそうな髪かみのふさが頬にかかるので、そのたびに彼女の白い手がうごいて髪を耳のうしろへ持って行くのが見えた。

海の上の空はすっかり暗くなっていた。それでもまだ7小さな子供たちが息をきらして通りを走りまわったり、しきりにおたがいの名前を呼び合ったりしていた。

少年は何か話しかけなくては、と思った。だけど話すこともとっさには浮かんでこなかった。彼は大した考えもなしに先週から藤沢の映画館でやっているアメリカの動物映画の題名をいった。

「あの映画、二回も見ちゃった。」

「そいつなの。」

彼女はとても驚いたというように彼の顔をのぞきこんだ。

「映画はあまり見ないわ。眼鏡をかけなきゃならないから。」

そして首をすくめて笑った。

それから彼女は少年の知らない宝塚※か何かのスタアのことを女の子どうしでするようにあだ名で呼んで、「むかし、あのひとに夢中だったけれど、いまはそれほどでもないわ。」

といった。

「そっ。」

少年はいいづちをひとつ打つのもおかしなくらい力んでしまうので、相手が笑い出しはしないかと思った。

彼女は彼に学校がおもしろいかときいた。彼はどっちともうまく答えられなかった。

「高校へ行くと選択科目っていうのがあるのよ。私はいま数学と手芸をとってるの。でも勉強は好きじゃないから大学まで行くかどうかわからないわ。」

少年はそんな先のことまで考えたことはなかった。彼は黙っていた。

「うちは父がいないから。」

そういつて彼女は口をつぐんだ。

彼女の父が東京ですっと会社員をしていたこと、それから兵隊にとられて南方で戦病死したことをいつか彼の母が話していた。彼は何かいおうとして言葉をさがした。

けれども彼女は一瞬後にはまた明るい顔つきになっていた。

「でもよかったわ。あなたのお父さまは元気で帰っていらして。そのときはうれしかったですよ。」

少年は苦笑してみせた。そしてわざとどうでもいいやという調子で答えた。

「でもおやじはね、生きて帰ってくるんじゃないわかったって、そっいつてるよ。」

「だってそんなことはないわ。嘘よ^お、そんなの。」

そのとき通りのむこうの端で誰かが外灯をつけた。9子供たちは一人のこらず姿を消していた。

「嘘よ、そんなの。」

彼女はもう一度そっいつてじつと彼の目を見つめた。外灯の光で今度ははっきり顔が見えた。

彼女が行ってしまったってからも少年はいつまでもその場にぐずぐずしていた。10自分がいった言葉のもの欲しさに気づいて、11後悔にくるしみながらじつと外灯のあかりに目をこらした。

^[注] ※乱べい歯……でこぼこに並んでいる歯

^{*} ※癩癩もち……感情的に怒りやすい性質

^{*} ※白百合……私立の女子中学校高等学校の名称

^{*} ※宝塚……宝塚歌劇団の略称

⁽阿部昭『あこがれ』より

国語〔その四〕

問一 波線部 i、ii のここでの意味として最も適当なものをあとの選択肢から選び、記号で答えなさい。

i わき目もふらず

イ こわいもの知らずで無茶に ロ よそ見をすることなく一目散に ハ 配慮がなく無分別に

ii 目を大きく見開くこともせず ホ すみずみまでじつと見ないで

ii 首をすくめて

イ 首を傾けて ロ 首を伸ばして ハ 首を大きく振って

ii 首をひねって

ホ 首を縮めて小さくして

iii 口をつぐんだ

イ 仲を取り持った ロ 会話に割り込んだ ハ 口を閉ざして黙った

ii 生意気な口をきいた ホ あきれて物が言えなかった

問二 傍線部 1「春がきた」とあるが、「春」の季節が最もよく描写されている一文を I 文中から探し、その始めの五字を抜き出して記しなさい。

問三 傍線部 2「中学生の顔洗いはずいぶん長くかかる」とあるが、その理由を二十字以内で記しなさい。

問四 傍線部 3「春がきたのだ、と少年は思った」という表現には、「春」という季節がきた」という意味のほかにもう一つの意味が掛けられている。それはどのような意味か。次の文の空欄に入る漢字二字の言葉を記しなさい。

▼（ 1 ）に興味を持ち始める（ 2 ）期になった。

問五 空欄 X・Y・Z に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

X……イ 無意識に ロ わざとのように ハ いつもより ニ 特に理由もなく ホ 思い切り

Y……イ へらへらする ロ ばたばたする ハ はらはらする ニ おどおどする ホ ひやひやする

Z……イ ますます ロ ぼちぼち ハ しぶしぶ ニ ただただ ホ にやにや

問六 傍線部 4「彼は何度も子供部屋の柱時計に目をやった」とあるが、その理由が最もよく説明されている一文を I 文中から探し、その始めの五字を抜き出して記しなさい。

問七 傍線部 5「これはおかしなことになった」とあるが、どういうことか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 彼女と会話している中で、彼女のことを好きなのがわかったが、それを告白する絶好の機会が失われてしまったこと。

ロ 通学中、少しでも長い時間、少女の姿を見ていたいと思っていたのに、逆に駅まで急いで走る羽目になってしまったこと。

ハ 思いがけず彼女から話しかけられて、いつもの電車に乗り遅れそうになり、駅まで走る羽目になってしまったこと。

ニ 彼女から「いっしょに走ってあげる」と言われたのに、勢いよく走り出して逆に彼女を引き離してしまったこと。

ホ 彼女から話しかけられ、返事をしたら、彼女に遅刻しそうな朝寝坊な者と誤解されるような事態になってしまったこと。

問八 傍線部 6「どうしても彼女が好きなのがわかった」とあるが、その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 自分よりも体力的にも劣っているにもかかわらず、自分のために一緒に走ろうと言ってくれる彼女のけなげさに心を奪われたから。

ロ 彼女と一緒にいると挙動不審になってしまうのに、それでもいいからそばにいたいと願ってしまうから。

ハ 彼女と話をしようとすると冷静でいられなくなるうえに、背後で走っている彼女のことを気になって仕方がないから。

ニ 普段だけでなく遅刻しそうであわてて走っている時でさえも、彼女のことを気になって仕方がないことを自覚したから。

ホ 年上で落ち着いた目をしているところ以前からひかれていたうえに、一緒に走ってくれるやさしい面にも好意を持ったから。

問九 傍線部 7「小さな子供たちがく呼び合ったりしていた」・傍線部 9「子供たちはく姿を消していた」とあるが、この子供たちの描写から読み取れることは何か。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 海辺の町の春は、あつという間に日が暮れてしまうということ。

ロ 彼女が亡くなった父の代わりに、小さな弟たちを大切にしていること。

ハ 彼と彼女が、表には出さないがお互いに好意を感じあっていること。

ニ 彼と彼女は、小さな子供たちとは違う悩みを抱えているということ。

ホ 彼が彼女との会話に夢中になって、時がたつのを忘れていたこと。

問十 傍線部 8「嘘よ、そんなの」と彼女が言ったのはなぜか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 父親が戦死した彼女からしてみれば、「生きて帰ってくるんじゃないかった」という少年の父親の言葉は、戦死した家族のいる家庭をさげすんでいると思ったから。

ロ 父親が戦死した彼女からしてみれば、「生きて帰ってくるんじゃないかった」という少年の父親の言葉は、戦争の責任を自分だけ逃れようとしていると思ったから。

ハ 父親が戦死した彼女からしてみれば、「生きて帰ってくるんじゃないかった」という少年の父親の言葉は、家族に対して自身を弁護している言葉だと思ったから。

ニ 父親が戦死した彼女からしてみれば、「生きて帰ってくるんじゃないかった」という少年の父親の言葉は、軍人としての建前を言っているだけだと思ったから。

ホ 父親が戦死した彼女からしてみれば、「生きて帰ってくるんじゃないかった」という少年の父親の言葉は、家族を軽視した自分勝手な発言だと思ったから。

問十一 傍線部 10「自分がいった言葉のの欲しさ」とはどういうことか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 年上の彼女に、父親から独り立ちした大人っぽい自分を見せたかったこと。

ロ 年上の彼女に、父親の存在を問題としない尊大な自分を見せたかったこと。

ハ 年上の彼女に、父親よりも立派に成長しつつある自分を見せたかったこと。

ニ 年上の彼女に、父親と対等の物の見方ができる自分を見せたかったこと。

ホ 年上の彼女に、父親と仲が悪く一人ぼっちの自分を見せたかったこと。

問十二 傍線部 11「後悔にくるしみながら」とあるが、少年は何を後悔をしているのか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

さい。

イ 死について真面目に考えている彼女に対して、からかうような態度をとってしまったこと。

ロ 会話を楽しんでる彼女に対して、水を差すような深刻な話題をふってしまったこと。

ハ 父親の不在を気にする彼女に対して、父親の生存を誇るような言い方をしてしまったこと。

ニ 父親を失っている彼女に対して、そのことに配慮が欠けた言葉を言ってしまったこと。

ホ 父親の存命を祝福した彼女に対して、反抗的でなげやりな言動をとってしまったこと。

問十三 この作品で描かれている時代はいつか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 大正時代

ロ 昭和のはじめ

ハ 昭和二十年代

ニ 昭和四十年代

ホ 平成時代

国語解答用紙

受験番号

氏名

合計

問一 a 携わった
わった

問一 b ジリツ

問一 c センモン

問二 d シテキ

問二 e ヘイゾン

問二 f 代替

問四 ① 1

問四 ② 2

問四 3

問四 i

問四 ii

問四 iii

問六 I

問六 II

問六 問五

問六 問三

問六 問二

問六 問一

問七 1

問七 2

問七 3

問七 i

問七 ii

問七 iii

問八 1

問八 2

問八 3

問八 i

問八 ii

問八 iii

問九 1

問九 2

問九 3

問九 i

問九 ii

問九 iii

問十 1

問十 2

問十 3

問十 i

問十 ii

問十 iii

問十一 1

問十一 2

問十一 3

問十一 i

問十一 ii

問十一 iii

問十二 1

問十二 2

問十二 3

問十二 i

問十二 ii

問十二 iii

問十三 1

問十三 2

問十三 3

問十三 i

問十三 ii

問十三 iii

小計

小計

小計

携わった

わった

ジリツ

センモン

シテキ

ヘイゾン

代替

1

2

3

i

ii

iii

I

II

問五

問三

問二

問一

1

2

3

i

ii

iii

1

2

3

i

ii

iii

1

2

3

i

ii

iii

(折り線)

30

(四十字分)

(十四字分)

(十五字分)

(九字分)

(十字分)

(各五字分)

(各六字分)

(各五字分)

(五字分)

問六

問四

三連

二連

二 問一

問二

問三

問五

問七

三 問一

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問十

問十二

i

ii

iii

X

Y

Z

1

2

(二十字分)

(五字分)

問九

問十一

問十三